

CMI 株式会社

本社:東京都港区三田三丁目14-11 鳥和三田ビル8階

お問合せ電話:+81-3-6453-9601

中国炭素材料市場動向 (2021年10月)

1. ニードルコークス

2021年10月15日～22日の期間、第4四半期の電力規制などによるニードルコークス(以下、「NC」と略す)メーカーのコスト高に加え、原料の蒸留塔ボトム油と天然ガスの値上がりを受けて、中国NC市場は値上がり向にある。

10月21日のNC価格は下記の通りである

- 中国国産 NC 価格 (1元=17.8円で換算)
 - 石炭系 NC 価格は 9,500～10,000 元/トン (16.9～17.8 万円/トン)
 - 石油系 NC 価格は 10,500～12,000 元/トン (18.7～21.4 万円/トン)
 - ニップル用コークスは 13,000 元/トン (23.2 万円/トン)
 - 生コークスは 6,500～7,000 元/トン (11.6～12.5 万円/トン)
- 輸入 NC 価格 (1ドル=113.9円で換算)
 - 石炭系 NC 価格は 1,500～1,600 ドル/トン (17.1～18.2 万円/トン)
 - 石油系 NC 価格は 1,600～2,500 ドル/トン (18.2～28.5 万円/トン)
 - 負極用コークスは 850～1,300 ドル/トン (9.7～14.8 万円/トン)

コスト高と増産鈍化の影響で NC 製品の価格は値上がりが続き、中国国内の NC 価格は 300～600 元/トン (0.5～1.1 万円/トン) ほど上昇すると見込まれている。

2. 石炭ピッチ

2021年10月15日～22日の石炭ピッチ価格は安定していた。電力規制、黒鉛電極、負極材料などの川下製品の値上がりを受けて、石炭ピッチ市場は様子見の状況である。

現時点で含浸ピッチは 5,300～5,500 元/トン (9.4～9.8 万円/トン)、コーティングピッチは 17,000 元/トン (30.3 万円/トン) である。

3. 黒鉛電極

10月に入ってから国内の黒鉛電極価格は値上がりしつづけている。UHP600mm を例にすると、10月21日時点で9月末より11.6%値上がりした。原材料価格の高騰と電力規制の範囲拡大がその原因と見られている。

10月1日から現時点まで、石油コークスは大幅に値上がりしている。大慶 1#A 石油コークスは 5,000 元/トン (8.9 万円/トン) に上昇、値上がり幅は 400 元/トン (0.7 万円/トン)、錦西石化 1#B は 5,050 元/トン (9.0 万円/トン) で 800 元/トン (1.4 万円/トン) 値上がりした。

CMI 株式会社

本社:東京都港区三田三丁目14-11 鳥和三田ビル8階

お問合せ電話:+81-3-6453-9601

内モンゴル自治区と河南省で行われている電力規制は山西省への拡大に加え、河北省の環境規制措置は厳格化している。その影響で黒鉛化加工コストは 4,200 元/トン（7.5 万円/トン）から 4,500 元/トン（8.0 万円/トン）に上昇した。

電力規制措置と原材料価格の高止まりが続き、黒鉛電力価格は引き続き値上がりすると見込まれている。

表 1 中国国産黒鉛電極価格推移（2021 年 9 月～10 月）

（1 元 = 17.8 円で換算）

指標	税込価格 (トン当たり)				増加率 (%)
	9 月 30 日		10 月 21 日		
	人民元 (万元)	日本円 (万円)	人民元 (元)	日本円 (円)	
UHP450mm (NC 含有量 30%)	1.78-1.80	31.68-32.04	1.95-2.00	34.71-35.60	10
UHP450mm	1.85-1.90	32.93-33.82	2.05-2.10	36.49-37.38	11
UHP500mm	1.90-1.95	33.82-34.71	2.15-2.20	38.27-39.16	13
UHP550mm	1.95-2.05	34.71-36.49	2.25-2.30	40.05-40.94	15
UHP600mm*2400-2700mm	2.15-2.30	38.27-40.94	2.40-2.55	42.72-45.39	12
UHP700mm*2700mm	2.70-2.80	48.06-49.84	3.00-3.10	53.40-55.18	11

4. 負極材料

供給逼迫とコスト高の背景下で、負極材料市場の値上げ動向が強い。内モンゴル自治区の電力規制措置の継続と暖房供給の季節が到来で、第 4 四半期（10～12 月）の負極材料供給不足の緩和は期待できないと見込まれている。

エネルギー消費強度と消費総量の二重措置が厳しい中で、新規の負極材料黒鉛化工場を計画通りに稼働開始することが難しくなっている。そのため、2022 年も黒鉛化能力不足が続くと予測されている。

情報源：ICC 資訊より整理、作成。